



▲新鮮なサケを引き、笑顔の参加者

第33回登別漁港まつり
 9月11日(土)・12日(日)の2日間、登別漁港で『第33回登別漁港まつり』(同実行委員会主催)が開かれ、新鮮な海の幸を求める大勢の市民でにぎわいました。
 岸壁に大漁旗を飾った漁船が連なる華やかな雰囲気の中、海産物即売コーナーでは、家族連れなどが新鮮で格安の海産物を次々と買い求めているほか、毎年人気を集める朝揚げサケ抽選即売では、捕れたてを引き当てようとして整理券配布から長蛇の列ができ、抽選が行われるたびに会場から大きな歓声が上がっていました。

朝揚げサケ抽選即売に 長蛇の列

9/11
・12

全国の学生が集い 登別の未来を語る

第5回全国大学政策フォーラムin登別

9/1
~3

9月1日(水)~3日(金)、カント・レラをメイン会場に『全国大学政策フォーラムin登別』(同実行委員会主催)が行われ、自治体政策などを学ぶ学生など92人が登別に集いました。
 3日のグループ発表では、市内各所への訪問や調査などを行った結果を踏まえ、今回のテーマ『祝「市制施行40周年」のぼりべつの未来づくり〜私のマチから見える登別〜』にちなみユニークな提言があり、最優秀賞には、新たな観光資源として『パワースポット』を情報発信することを提言した日本大学法学部外山ゼミナールAチームが選ばれました。



▲グループ発表を真剣に聞く学生たち

本物さながらの迫力に 交流会参加者も興奮

宮城県白石市長から片倉小十郎景綱の 甲冑レプリカが贈呈

9月3日(金)、ホテル平安で行われた『姉妹都市白石市の観光と物産展』歓迎交流会で、宮城県白石市の風間康静市長から小笠原市長に片倉小十郎景綱の甲冑のレプリカが贈呈されました。

これは、登別市の市制施行40周年を記念し、サプライズプレゼントとして風間市長が白石市内の工房に作成を依頼したものです。

甲冑は、主にダンボールと石こうで作られています。本物さながらの迫力。風間市長は「イベントなどで、ぜひこれを着て出演してください」と小笠原市長に渡すと、早速甲冑を身にまとい「大切に使用させていただきます」とお礼の言葉を述べていました。
 贈られた甲冑は、市役所の1階ホールに展示しています。



▲甲冑をまとった小笠原市長(左)と風間市長(右)

9/3